

## 二十歳の誓い

私は高校2年生の冬、学校の帰宅中の駅で倒れている男の子を見かけました。その子の周りには人がいっぱい、駅員や医療の知識を持った方が命を繋ごうと必死でした。でも私は足がすくみ、消極的な性格から手伝えることは無いかと聞くことすらできず、ただ見ているだけでした。そこに救急隊が駆けつけ、迅速に状況を把握し、冷静沈着に処置を行い、焦っているお母さんに、一つ一つの処置や行動を細かく説明しました。「お母さん、今、処置をしています」「搬送準備をしています」「お子さん頑張ってるからお母さんも頑張ってくださいね」その姿は、まさにヒーローでした。その時私は「救急救命士になりたい」と強く思いました。

幼い頃から看護師である母の姿を見て、「命を救う」という職業には憧れてはいたのですが、度々夢が変わってしまいました。でもこの経験がきっかけとなり、救急救命士の資格を持った消防官になるために、資格が取れる大学へ進学しました。

大学では、国家試験に合格するための医療の知識の勉強だけでなく、大規模災害を想定した訓練施設があるので、実践的に学んでいます。実習は決して楽なものではなく体力的にも精神的にもしんどいですが、同じ志を持った仲間から多くの刺激をもらい、「救命救急士になりたい!」と思った“きっかけ”を忘れることなく日々乗り越えています。

これまでは消極的だった私が「京都市で消防官になり、多くの人の命を救い地域貢献する」という明確な夢ができたことで、地元の消防団に入団し、このような式典という大きな舞台上、大勢の方々の前で発表させて頂きたいと思うようになり、全てが変わりました。2年後には国家試験、消防官になるための公務員試験も控えています。頑張りたいと思います。

「助けを求める声があったら全力で助けに行く。命を守り、救うことで地元京都に地域貢献する」消防官になります。自分も夢を頂いたように、子ども達に夢を持つきっかけを与えられるヒーローになるということを、「二十歳の誓い」とさせて頂きます。

令和4年1月10日 新成人代表 水沼 千紘